



TITLE:

田上天文臺通信(1)

AUTHOR(S):

CITATION:

田上天文臺通信(1). 天界 1941, 21(244): 313-313

ISSUE DATE:

1941-09-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/168264>

RIGHT:

双頭式は黒點活動中の一型態であり、其の過去と將來の型態は相異なるものなる事は論を要しないけれども、其等相互間の變化や消長は極めて複雑多岐であり、永久の謎であらうか。之も後日の問題です。

後頭の活潑性 Activity of Followers. 本問題は太陽面に於ける磁氣力に關して最も緊密な因果關係を有つ黒點群であるから多大の興味を藏してゐる事は異論を要しない處でありませう。私の記録に得られた特性は

後頭結成による双頭化が	9個
後頭消失による双頭化崩壊が	6個
兩者を兼ねるもの	6個
計	21個
前頭出現による双頭化	5個
前頭消失により双頭崩壊	3個
計	8個

此の統計は後頭は先頭の約三倍弱の活潑性あるを物語つてゐます。次に兩頭間の小黒點の並列狀態も多種に分れ、S字狀、逆S字狀、又は二列の括弧狀もあります。

長命双頭群の一例 Example of an Enduring Bipolar Group. 1938年三月25日南半球子午線稍東部に出た双頭式は30日には後頭を中心にして見事な渦卷きを見せ、一週して四月21日には前面とは反對に前回に稀有な渦卷きを呈した。

結 論 Conclusion 私の此の研究は既に前人により究明されたるか、或は然らざるかは識らざるも、自己の短かからざる期間の努力の結晶で、他人より教示されざる事實を見出して科學的快樂を味ふ時、“我々日本人は觀測を勵まなくてはならぬ”と勸告された先輩の言の眞實なるを體得しました。(1941. 7. 17)

田 上 天 文 臺 通 信 (1)

[Communications from Tanakami Observatory]

四月の初めから着手した5メートルのドームの工事が、漸く完成に近づきつゝある。去る八月5日に上棟式を挙げ、同25日に中央ビラ1の上に鐵板を載せ了つた。今後、九月初めに回轉屋根の組み上げ、同月末に45センチの大反射鏡が据え付けられる段取りとなる豫定、内部の裝飾や整頓に十月一ぱいを費し、十一月に落成となるだらう。

小ドームにある16センチのエリソン鏡は、昨年末以來、殆んど毎晴夜、使用されてゐる。しかし、天氣が今年は特に悪く、曇りと雨つゞきで、春以來惱まされた。最近漸く空が落ち付く。(1941—8—26)